

平成28年度 学校評価

「聖十字幼稚園自己評価公表シート」について

本園では、教師自らが客観的な目で自園の教育・保育を振り返り、主体的に改善に取り組むために課題を明確にすることを目的として、学校評価を実施、公表しています。

1. 本園の教育目標

「愛のうちによるこんで生き自分の力で発見し創り出しつつみんなと共に伸びてゆく子ども」

教育方針

- ・一人ひとりの子どもを大切にする保育を行う。
- ・年次の枠を越えて、神と子どもと先生との交わりの共同体形成を目指す。
- ・子どもたちが神様にいつも守られて愛されていることを知る。
- ・子どもが本当に心から満足して遊べる保育をめざしている。

重点事項（特色）

- ・キリスト教保育である。
- ・遊びを中心とした保育である。
- ・タテ割り保育である。
- ・完全給食である。
- ・いろいろな行事がある。

学年別目標

3歳児

- ・イエス様に愛されていることを感じる。
- ・みんなと共に過ごす楽しさを味わう。
- ・身体全体を動かして、遊んだり、表現することを喜ぶ。
- ・神様が作ってくださった自然に触れ喜びを感謝する。

4歳児

- ・イエス様に愛されていることを知り、お祈りをするをよろこぶ。
- ・一人ひとりが意欲を持って力を出し合い友だちとあそび、生活するたのしさを経験する。
- ・いろいろな生活経験を通して基本的な力をつけ、豊かな子どもに育つ。

5歳児

- ・イエス様に愛されていることを知り、お祈りをするをよろこぶ。

- ・一人ひとりが意欲を持って力を出し合い友だちとあそび、生活するたのしさを体験する。
- ・いろいろな生活経験を通して基本的な力をつけ、豊かな子どもに育つ。

2. 本年度重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画（『私立幼稚園の自己評価と解説』の自己評価項目活用）

学校評価の主旨を理解し、自己点検・自己評価を実施。教師自らが客観的な目で自園の教育・保育を振り返り、主体的に改善に取り組むために課題を明確にする。

※評価項目は『私立幼稚園の自己評価と解説』の自己評価項目の一部を参考とし、自園独自の項目も設定

※評価結果の表示方法・・・ A：達成されている B：概ね達成されている C：取り組まれているが十分でない D：取組が不十分である

3. 評価項目の達成及び取組み状況

	評価項目	結果	取組み状況
1	保育の在り方（計画性） 幼児への対応	B	子供たちの自主性、探求心を重んじ、褒めることを大切にしつつ、時期を意識した教師の言葉のかけ方・タイミング等、幼児への解りやすい働きかけにより、全教員、「バランスのとれた保育」を念頭に指導計画を立案・実践した。
2	教師としての資質や 保育の質の向上	B	教師として自覚を持ち、例年通りの意識になるのではなく、新たなことに挑戦する積極性をもつなかで、それぞれの力を発揮し、真面目に保育に取り組むことができた。それぞれ経験を積み自信が出てきた分、さらなるチャレンジ精神が必要となる。
3	保護者への対応 地域社会とのかかわり	B	時間をかけた手書きのクラスだよりなどで情報提供がタイミングよくでき、保護者との情報交換をよくできた。いろいろ行事による生活経験を通して基本的な力をつけ、豊かな子どもに育つ期待に応えることができています。

4	子育て支援や 預かり保育の充実	B	平成29年度認定こども園を予定しているため、本園保護者の生活スタイルも考慮し、今後実施日や時間帯を検討してきた。預かり保育の時間や回数等、長期休暇中の預かりを増やして実施するなどなどの試みができなかった。
5	研修と研究	C	平成29年度認定こども園を予定しているため、組織や制度の変更については、全員で学ぶ機会を持つことができた。しかし、0歳～2歳の保育についての勉強会をする必要があったが、通常業務で忙しくそこまですることができなかった。
6	防災対策の見直し 安全保育・安全点検	○	聖十字幼稚園は2011年3月11日・東日本大震災発生時の長期振動の大きな揺れがあり、それからほぼ3カ月後の6月30日、東日本大震災の誘発地震とされる長野県中部地震（震度5強の直下型地震）が松本市を襲った。このことを教訓に、防災訓練を重視。2回行っているが、そのうちの1回は保護者との引き渡し訓練を実施している。認定こども園になってからは毎月防災訓練をおこなう予定である。
7	保育の振り返りと 自己点検・自己評価	◎	平成29年度からは、評価シートを改訂し、評価シートにおいても、率直に意見が言えるような雰囲気作りに努めたい。点数では表せない思いや成果、悩みを感じ取ることができることを目標とする。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B+	28年度入園募集は高調であり、「施設設備だけでなく保育内容」という目に見えない環境の大切さを実感した。1913年から100年以上続く聖十字幼稚園の保育の伝統を生かしながら、時代や環境に適応したキリスト教保育の実践を確かなものとすることができた。一人ひとりの子どもを大切に保育を行うとともに、今後ますます、年次の枠を越えて、神と子どもと先生との交わりの共同体形成を目指していく。特に、平成29年度には認定こども園になるため、園児数とともに教職員数も増加する。保育園棟や新 MARIA 館など新しい施設も整備されるが、施設とともに内容も充実させる必要がある。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
子育て支援事業の充実	長期休暇中の預かり実施日の見直し 早朝の預かり保育の実施
安全保育・安全点検	園舎も建築後20年経過し、幼児の視点に立った安全点検と園庭の使用 方法・道具の点検
防災対策の見直し	園舎での避難経路の確認と避難計画の見直し。特に避難訓練は毎月実施し、 園児が避難になれる状況を構築する。 地域との連携

6. 学校関係者の評価（平成28年度）

理事会において、自己評価を公開し意見を求めたところ、特に指摘するべき事項はなく、妥当であると認められた。

●意見の主な内容（平成29年3月19日実施）

評価項目	自己評価の点	
保育の在り方（計画性） 幼児への対応	B	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教保育を重視した教育方針には共感。 ・愛のうちによることで生き自分の力で発見し創り出しつつみんなと共に伸びてゆくことの大切さをさらに知らせてやって欲しい。 ・0歳～2歳児に対する保育についてももう少し検討すべきである。

<p>教師としての資質や 保育の質の向上</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人として、聖十字幼稚園と稲荷山幼稚園の保育の質を高めて、互いの情報を交換して欲しい。 ・ 普段の先生方の様子から、「聖十字らしい姿」があり、先生方にしっかり伝承され安心。 ・ 前例踏襲の傾向がみられ、認定こども園になって変化に対応できるか心配。
<p>保護者への対応 地域社会とのかかわり</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園だよりなど丁寧なやりとりがうかがえ、保護者に対して親切な対応をしている。 ・ 丁寧な対応と文書作成の効率化を両立するものであり、その点の意識が足りない。 ・ 行事ごとに地域の方々に挨拶していることも好感がもてる。
<p>子育て支援や 預かり保育の充実</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎の時間で保護者との会話を重視している点は良い。 ・ 預かり時間等、どのような時間を求めている保護者が多いのかを検討できなかったことは残念。
<p>研修と研究</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聖十字幼稚園のキリスト教保育の伝統を守りつつ、時代に対応するには、積極的な研究が必要であるが、長期的な視野にかけているところは不安材料である。
<p>防災対策見直し</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者との引き渡し訓練をしていることは実践的で非常に良い。 ・ 避難訓練を次年度から毎月実施するという積極性は評価できる。 ・ 地元と協力した避難訓練等、計画してはどうか。

<p>自由記載 保育の振り返りと 自己点検・自己評価</p>	<p>◎</p>	<p>・ 1913年から100年以上続く聖十字幼稚園の保育の伝統を生かしながら、時代や環境に適応したキリスト教保育の実践をしているかどうか、認定こども園になったときに、その真価が問われる。認定こども園になることを契機に主任も交代するのであるから、新しい主任の指示をよく確認し、経験則に固執することのないようにしてほしい。</p>
--	----------	--

上記のように総評をいただきました。

平成29年度から認定こども園になるので、時代や環境の変化に応え責任を持って保育に努めるよう、理事の皆様からご意見をいただきました。

7. 財務状況

公認会計士により、適正であると認められている。